

令和6(2024)年度日本歴史研究コース授業計画

授業名	近現代社会論			
担当教員	大串 潤児			
授業概要	近現代社会を社会史的な視点から行うための方法について検討する（講義）。			
教育目標・目的	近現代社会（主に20世紀を中心に）を対象に、その時代像について社会史的方法をベースに考えていくことができるよう、基本的に目配りすべき論点・領域についての知見を獲得する。また、その際に留意すべき隣接諸学の研究動向や、近現代史資料の取り扱いについても、自らの研究との関わりを持たせながら学び、研究の総合化を図ることが出来る能力を身につける。			
成績評価	社会史において重要となる諸領域に対する理解に33%、隣接諸学に対するアプローチに33%、資料の取り扱いに34%を配点の上、評価する。			
授業計画	1. 社会史という方法	9. サークル運動の世界—社会史として		
	2. 地域史の考え方	10. サークル運動の問いかけ		
	3. 民衆史の視点	11. 歴史教育論と博物館		
	4. 「銃後」という社会史	12. 近現代史資料の性格と課題		
	5. 戦後改革期の社会史	13. 映像・図像史料の特徴		
	6. 地域女性史研究の成果	14. 現代史料論—被災史料レスキューから		
	7. 地域ジェンダー史の試み	15. まとめ……社会史の方法論を考える。		
	8. 1950年代論			
実施場所	国立歴史民俗博物館 内	使用言語	日本語	
前期・後期の別	通年	対象年次	3, 4, 5	単位数 2単位
教科書・参考図書	特になし			
備考	※ なお、授業の構成は、受講者のこれまでの研究・学習の状況に応じて変更することがある。			